

# 桜ヶ丘だより

鹿児島大学病院広報誌

Kagoshima University Hospital PR News



特集

## 呼吸器内科、呼吸器外科のご紹介

看護部トピックス

B棟5階病棟 呼吸器内科・外科、心臓血管内科・外科、救急集中治療科

歯科診療部門トピックス

歯科総合診療部「早めの治療も、そしてお口の状態を知ることも大切です」

臨床技術部トピックス

臨床工学部門「医療機器の中央管理で、安心・安全な医療を提供」

61

2023.1

# 呼吸器内科

## Respiratory Medicine



## 高度な専門知識と技術、最新のエビデンスに基づき、 質の高い最善の医療を提供する。

—呼吸器内科の診療について教えてください。

肺や気管支の病気を内科的に治療する診療科です。具体的には、肺がんや慢性閉塞性肺疾患(COPD)、間質性肺炎、喘息、肺炎など多岐にわたります。肺の病気は、肺そのものの病気のほか、全身の病気が肺に病変を起こすケースや、複数の病気が合併するケースも少なくありません。診断や治療が難しい病気に対して、様々な診療科とも連携し、高度な専門知識と最新のエビデンスに基づき、高性能な医療機器と習熟した技術、薬剤を用いて、質の高い最善の医療を届けることを私たちは目指しています。

—高齢化社会を反映して呼吸器疾患の増加も予測されるのでは？

高齢化に加え、環境要因や病原体の変化により呼吸器疾患の患者数は増加傾向にあります。他方、近年、呼吸器医療は大きく進歩しています。例えば肺がん治療に関しては、免疫チェックポイント阻害薬や分子標的薬が登場し、手術が難しい患者さんにも劇的な治療効果を期待できるようになりました。喘息に関しても分子標的薬、間質性肺炎には抗線維化薬という新しい薬剤がありますが、いずれも正確な診断が前提となります。当科では県内唯一のクライオ生検による組織・病理診断のほか、呼吸機能検査・画像データ、バイオマーカー等により診断の精度を高め、患者さんと話し合いながら最適・最善な治療の選択肢を提示できるよう努めています。以前は難しいと言われていた病気にも

治療の選択肢が広がっていますので、諦めないで治療を考えてほしいと思います。

—医局運営に当たって心掛けていることを教えてください。

医局員一人ひとりが自分の意見を持ち、診療方針も含め、お互いに自分の意見を言いやすい風通しの良い雰囲気づくりを心掛けています。女性の医局員が比較的多いこともあり、産休育休取得後にも復帰できるようライフワークバランスは以前から重要視しており、主治医を複数人で務めるグループ診療制を採用しています。呼吸器には、診断や治療が確立していない病気も数多くあることから研究活動にも重点を置いています。

(聞き手：鹿児島大学病院 広報担当  
副病院長 宇都 由美子 特任教授)

最善の医療をこころ



## Profile

鹿児島大学 大学院医歯学総合研究科  
循環器・呼吸器病学講座 呼吸器内科学分野

### 井上 博雅 教授

(呼吸器内科 部門科長)

1985年 宮崎医科大学医学部 卒業  
1992年 博士(医学)取得  
1992年 カリフォルニア大学サンフランシスコ校 Postdoctoral fellow  
1994年 九州大学医学部附属病院 呼吸器科 助手  
2002年 同 講師  
2007年 同 大学院医学研究院 呼吸器内科学 准教授  
2010年 鹿児島大学 大学院医歯学総合研究科  
循環器・呼吸器病学講座 呼吸器内科学分野 教授

資格 ●日本内科学会 認定内科医、総合内科専門医  
●日本呼吸器学会 専門医、指導医  
●日本アレルギー学会 専門医、指導医  
●日本呼吸器内視鏡学会 気管支鏡専門医、指導医

鹿児島大学 大学院医歯学総合研究科  
循環器・呼吸器病学講座 呼吸器内科学分野

### 水野 圭子 特任准教授

1991年 鹿児島大学医学部 卒業  
2007年 埼玉医科大学国際医療センター  
腫瘍内科/緩和医療科 助教  
2010年 鹿児島大学医学部・歯学部附属病院  
呼吸器・ストレスケアセンター 呼吸器内科 助教  
2019年 博士(医学)取得  
2019年 鹿児島大学病院 呼吸器・ストレスケアセンター  
呼吸器内科 講師  
2022年 鹿児島大学 大学院医歯学総合研究科  
循環器・呼吸器病学講座 呼吸器内科学分野 特任准教授

資格 ●日本内科学会 認定内科医、総合内科専門医  
●日本呼吸器学会 専門医、指導医  
●日本臨床腫瘍学会 がん薬物療法専門医、専門医、指導医  
●日本がん治療認定医機構 がん治療認定医  
●日本医師会 認定産業医

鹿児島大学病院  
呼吸器・ストレスケアセンター

### 末次 隆行 助教

(呼吸器内科学分野 医局長)

1997年 琉球大学医学部 卒業  
2019年 鹿児島大学病院 呼吸器・ストレスケアセンター 呼吸器内科 医員  
2020年 博士(医学)取得  
2020年 鹿児島大学病院 呼吸器・ストレスケアセンター 呼吸器内科 助教

資格 ●日本内科学会 認定内科医  
●日本呼吸器学会 専門医、指導医  
●日本がん治療認定医機構 がん治療認定医



末次 助教

井上 教授

水野 准教授

汝に我が  
困難なるとも  
希望せよ



## Profile

鹿児島大学 大学院医歯学総合研究科  
外科学講座 呼吸器外科学分野

### 佐藤 雅美 教授

(呼吸器外科 部門科長、特命副病院長、総合臨床研修  
センター長)

1982年 東北大学医学部 卒業  
1991年 医学博士 取得  
1992年 東北大学抗酸菌病研究所 助手(外科学部門)  
1996年 東北大学医学部第一病理学(現分子病理)教室へ出向  
2001年 東北大学加齢医学研究所 助教授(呼吸器再建研究分野)  
2002年 文部科学省在外研究員  
(ハーバードメディカルスクール客員助教授)  
2004年 宮城県立がんセンター 主任医長(呼吸器外科長)  
2005年 同 医療部長(呼吸器外科長)  
2010年 鹿児島大学 大学院医歯学総合研究科  
外科学講座 呼吸器外科学分野 教授  
2017年 総合臨床研修センター長  
2020年 鹿児島大学病院副病院長(特命)

資格 ●日本呼吸器内視鏡学会 評議員、気管支鏡専門医、  
気管支鏡指導医  
●日本呼吸器外科学会 評議員、専門医、指導医  
●日本胸部外科学会 指導医  
●日本外科学会 代議員、専門医、指導医  
●終身日本呼吸器外科学会 指導医  
●日本肺癌学会 評議員  
●American College of Chest Physicians(Fellow)

鹿児島大学 大学院医歯学総合研究科  
外科学講座 呼吸器外科学分野

### 上田 和弘 特任准教授

1994年 山口大学医学部 卒業  
1999年 博士(医学)取得  
2006年 山口大学医学部附属病院 手術部 助手  
2011年 同 大学院医学系研究科 器官病態外科学分野 講師  
2018年 鹿児島大学 大学院医歯学総合研究科  
外科学講座 呼吸器外科学分野 特任准教授

資格 ●日本外科学会 指導医、認定医  
●日本呼吸器外科学会 胸腔鏡安全技術認定医、専門医  
●日本外科学会 専門医  
●日本がん治療認定医機構 がん治療認定医



上田 准教授

佐藤 教授



# 呼吸器外科

## Respiratory Surgery

### 治る可能性と身体へのダメージ、術後の生活の質、 バランスの取れた一人ひとりに最適な医療を提供。

#### －呼吸器外科の診療について教えてください。

わが国でもっとも多い肺癌に対し呼吸器内科、放射線科、病理部との合同カンファを通じて診断し、手術、外来化学療法も含め、最も望ましい治療法をサポートします。また気管支、肺良性疾患、縦隔、胸壁などの疾患についても、患者さんの生活の質を考慮しながら、内視鏡的診断や治療も含め幅広くサポートします。病気のみに着目した画一的な診療ではなく、患者さんの生き立ちや生活背景を理解し、治療への意欲を支える最大限の情報提供を行うことを心掛けています。

#### －2010年の医局開設から国内屈指の手術数を手がけてこられた中で、特筆すべき実績について教えてください。

最初に手がけたのが完全胸腔鏡手術の導入です。世の中の医療の流れが低侵襲手術へとシフトすることを見通し、麻酔科のサポートの下で導入を進めました。ノウハウを蓄積し今日ではスタンダードになりましたが、当初はチャレンジでした。二つ目はロボット支援手術の導入です。現在の適応疾患は原発性肺癌、転移性肺腫瘍、縦隔腫瘍です。通常5カ所の傷口で行う手術を3カ所の小さい傷口で行うのは、当科独自の技術です。技術的な面においては他にも、原発巣とリンパ節のアンブロック切除術や単孔式胸腔鏡下手術、ドレーン管(手術後に傷口から胸の中に入る管)を入れない手術など、患者さんの痛みと身体的ダメージを極力抑える手術を追究・実現してきました。近年、放射

線科の画像診断の精度が高まったことも診断と治療、手術効果を上げています。かつて全国平均を大きく上回っていた鹿児島県の肺癌死亡率が、当科開設以降減少してきたことも我々の誇りです。

#### －人材育成についてのお考えは？

外科医は、成功体験を積み重ねることが成長への意欲になります。知識を教えるだけではなく、段階的に手術の難易度を上げて、成功体験を積んでもらうことを心掛けています。また、さまざまな症例を数多く学ぶため、県外各地の医療機関へ医局員やスタッフを派遣しています。学びをしっかりと身につけ、将来は鹿児島に根を張り、良い仕事をしてほしいと思います。

(聞き手：鹿児島大学病院 広報担当  
副病院長 宇都 由美子特任教授)



Topics

## 「その人らしく生きる」を支える専門職チーム

### B棟5階病棟

#### 「チーム力アップ!」B棟5階の底力を発揮した1年

B棟5階は、呼吸器センターとして呼吸器内科・外科が主科であり、心臓血管内科・外科、救急集中治療科の混合病棟です。当病棟では、肺腫瘍に対する手術・化学療法・放射線療法・気管支鏡などの治療や検査、COPD（慢性閉塞性肺疾患）・間質性肺炎など炎症性疾患の治療が行われています。

近年、呼吸器外科では、高難易度技術のハイブリッド手術、ロボット支援下手術が行われ、低侵襲での手術が可能となっています。私たち看護師は、術後合併症を発生しないように手術前から専門職チームで協力し取り組んでいます。また、肺腫瘍に対する化学療法や放射線治療を行う患者さんは、治療期間が長期となるため、治療と治療の合間はなるべく自宅で過ごせるよう医師・栄養士・医療ソーシャルワーカー・退院支援専従看護師・リハビリスタッフ・緩和ケアスタッフなどが連携して取り組んでいます。さらに、間質性肺炎

などにより在宅酸素療法を行う患者さんは、ご自宅の環境を確認し、地域の訪問看護師や酸素を取り扱う業者と調整を行い、在宅で酸素療法が適切に継続できるよう環境を整えています。呼吸器疾患は内科・外科治療で様々な治療法があり、急激な症状の増悪により命を左右する場合がありますが、「その人らしく生きる」を支えるために専門職チームで何度も話し合い、患者さんやご家族の価値観や思いを大事にケアしています。

COVID-19第7波では、職員や患者さんの感染もあり、治療中の呼吸器疾患からくる症状かCOVID-19なのか見極めが困難な状況で不安もありました。しかし、一つひとつ丁寧に問題を解決し、診療科を含めスタッフ全体でこの難局を乗り越えることができ、今まで以上にチーム力が高まっていると実感しています。

これからも、患者さんから「B棟5階で治療できて良かった」と言われるよう、チーム力を最大限に発揮し真心を込めた医療・看護を提供し続けるよう頑張ります。



専門職チームメンバーでのカンファレンス。  
より良いケアについて検討中。



B棟5階「患者さんに寄り添ったケア」を  
モットーに笑顔を絶やさず全力で頑張っています。



# 歯科診療部門

Dental Division's Activity

口腔の健康から全身の健康を守る



# 臨床技術部

Division of Clinical Technology

診療部門と連携し、支援を行う専門職種集団

痛みがなくても歯医者さんに行きましょう！

歯科総合診療部

「早めの治療も、そしてお口の状態を知ることも大切です」

「歯医者さんは痛くなってから通うもの」と考える方も多いかと思います。しかし、「痛い」といった症状が出ていた場合には、すでに進行している場合も多く、そうなる



握力を測定するように、舌の力を器械（舌圧測定器）で測定します。他にも噛む能力の検査など様々あります。

と治療の回数や費用も多くかかってしまいます。また、むし歯や歯周病の他にも、舌や唇、飲み込みなど“お口の機能”が、自分では気づかないうちに低下してしまっている場合もあります。そのため、検査を受けて現在の状態を知っておくことも大切です。なお、50歳以上の方は保険適用でお口の機能検査を受けることができます。食べる楽しみを長く続けていくためにも、定期的な歯医者さんの受診を行っていきましょう。

医療機器の管理は、専門家にお任せあれ！

臨床工学部門

「医療機器の中央管理で、安心・安全な医療を提供」

病院では多くの医療機器が使用されています。医療機器を安心・安全に使用するためには、日々のメンテナンスが欠かせません。当院ME機器センターでは、医療機器の中央管理を行っています。中央管理とは医療機器の管理方法のことで、医療機器を使用している部署で管理せず、専門の部署で管理します。具体的には、病棟、外来、中央診療施設(手術室や集中治療室)で使用された医療機器を、医療機器の専門家である臨床工学技士がME機器センターで点検し、異常がないことを確認してから次の診療に使用します。

医療機器の中央管理で、県内唯一の特定機能病院として、高度な医療と共に安心・安全を提供します。



昨年度は約26,000件の医療機器を点検しています。管理を専門の部署で行うことで、効率的な運用にも効果を発揮します。

News

## 人工呼吸器・ECMO研修会を開催しました

令和4年9月24日(土)に、鹿児島大学病院で「人工呼吸器・ECMO研修会」が開催され、約20名の医療従事者が参加しました。

この研修会は、COVID-19の重症例に対する人工呼吸器/ECMO管理について、同治療を有効かつ安全に実施可能な人材育成を目的に、鹿児島県が主催し、NPO法人日本ECMO netのご協力のもと、医師・看護師・臨床工学技士を対象に行われたものです。

ECMO(エクモ、Extracorporeal membrane oxygenation: 体外式膜型人工肺)は、機能が低下した肺の代わりに体内へ酸素を取り込む働きをする医療機器で、親指ほどの管を太ももの血管から入れて体外へ血液を抜き出し、二酸化炭素を拡散・除去した上で酸素を加え、首付近の血管から体内に戻す装置です。

この間、患者さんは肺を休めることができますが、回復には2週間以上かかることもあり、治療中は24時間態勢での管理が求められるため、熟練した「医療チーム」が必要となります。

今回は、出水郡医師会広域医療センター、社会医療法人緑泉会 米盛病院からも参加があり、医師・看護師・臨床工学技士で構成されたチー

ムが本格的な実践練習を行いました。

当日は、地元のテレビ局から取材の申込みがあり、「医療チーム」の必要性や実践練習の様子について、インタビュー取材や撮影が併せて行われました。

鹿児島大学病院は、鹿児島県における医療の「最後の砦」を守るためにも、引き続き一致団結して医療に取り組んでまいります。



回路の異常発生に伴う回路交換及び手動によりECMOを操作する様子



エコー画像を見ながら、患者さん(人形)の太ももの血管から管を入れる様子

### 鹿児島大学病院基金へのご寄附のお願い



お問い合わせ先 鹿児島大学病院 総務課 企画・広報係  
TEL:099-275-6692 FAX:099-275-6846  
Eメール: kufsyoumu@kuas.kagoshima-u.ac.jp  
基金ホームページ:  
<https://www.hosp.kagoshima-u.ac.jp/fund/>

大学病院では、外来及び病棟における患者さんのお世話などをしていただくボランティア活動員を常時募集しています。「鹿大活き活きボランティア」にご興味のある方は、お気軽にお問い合わせください。

お問い合わせ先 鹿児島大学病院 医務課 医療安全係 TEL:099-275-5157

### 表紙の写真

(上段)呼吸器内科において、気管支鏡検査を行う様子  
(下段)呼吸器外科学分野 上田和弘 特任准教授



鹿児島大学病院広報誌 桜ヶ丘だより 61号

発行日/2023(令和5)年1月発行 発行/鹿児島大学病院広報委員会  
〒890-8520 鹿児島市桜ヶ丘8丁目35番1号 TEL 099-275-6710 URL: <http://www.hosp.kagoshima-u.ac.jp/>

